

「教えて喜田先生!」子育てに悩む パパ&ママを応援!



学校法人喜田学園 通信制課程

東林館高等学校

- ◎3年で高校卒業を目指すコース
- ◎受験対応個別指導コース
- ◎中学生コース・社会人コース

目的に合わせた幅広い学びを
提供しています

福山市光南町1-1-35
TEL.084-923-4543
FAX.084-926-9607



●福山駅南口から徒歩で約10分

東林館 福山

検索

●「コミュニケーションは
「何を伝えるか」より、
「何が伝わったか」が大切(その2)」

先月号に続いて、「親として言わなければならぬが、子供にとっては聞きたくない話題」をどう切り出すかを考えましょう。子供が心を開き、聞く耳を持つように私が気を付けていることは「言いにくい話は必ず前置きをする」「そして「大切な話は原稿におこしておく」ことです。

前置きとは、「①これから何の話をしたいのか」「②何のために話すのか」「③その話をすることによって、あなたにどうなってもらいたいのか」「④私はどんな思いでその話をするのか」「⑤今その話をあなたが聞ける状態か」を伝えてから話し始めていました。

⑤の質問で答えがNOだったら、その場では話さず「分かった。私はこんな思いであなたと話したいんだということ」は覚えておいてね。また話そう」と伝え、時間を置いてから再び話しています。そ

●「原稿におこして話す」

「大切は話ほど原稿におこす」ということも大切です。皆さんもお子様へ伝えたいことを、原稿におこしてみて下さい。受け手の立場でその原稿を読んだとき、いかに自分が情報を省略したり、伝えたい思いが募るあまり情報過多になり、意味が分がらなくなっているかに気付かれると思います。伝えたいことを文章におこし、練習してから伝えることで、感情的にならず、伝えたい事柄が伝えやすくなるのです。

以前「お伝えした情や想い」を代弁することも大切です。自分だけでなく家族としてチームを組み、親として大人として伝えたいことを明確にし、子どもに伝えることはとても大切で、伝えたい事柄が子供達に伝わりやすくなります。これらは、親子間だけでなく、夫婦間や上司と部下の関係等でも応用できることだと感じています。



喜田 紘平

東林館高等学校 理事長
実践心理学カウンセラー

学び・自立支援を通して
子どもの未来を創ります